

# 1 型糖尿病を持つ方の実際の療養行動について

—インスリンの使い方を中心に—

## 2 階東病棟

○山崎 麻朱 山本 真由香

もみのき病院 糖尿病・生活習慣外来

岡田 泰助

小児思春期医学

荒木 まり子

細木病院 小児科

新井 淳一

高知記念病院糖尿病内科

池田 幸雄

高知では1型糖尿病診療の基本姿勢を「その方の生活に合わせたインスリン補充」にして18年が経過した。責任インスリンの理論・インスリンの種類と効き方・追加打ちなどをアドバイスすることで、その後は患者さん自身が自分の生活の中でインスリンの使い方を工夫する事により、食事を含めた生活の質の向上がみられ、低血糖もSMBG回数も減少し、さらにHbA1cも著明に低下した。それでは、1型糖尿病の方が、実際には自分の生活の中でどのようなインスリンを補充しているのか（低血糖に対する補食等も含め）具体的に聞いてみることにした。対象は、サマーキャンプに参加したキャンパー・0B/0Gおよび外来通院中の1型糖尿病の方で、年齢は5-53歳、HbA1c(NGSP)値は平均7.0%・中央値6.9%。聴取できた内容は当日報告する。

〔 平成23年11月11・12日 日本糖尿病学会 中国四国地方会第49回総会（徳島）にて発表 〕